

地方の常識

地域特性を活かした独自規格

第8回

数字で記号化された

交差点 千葉県・成田市



関

東・東京で最も特徴的なことは人口の多さである。さらに日本人だけでなく海外からも多くの観光客が訪れるため、人々が一度に集まったときに生じる問題に対応する施設に着目してみた。その一つとして、車の運転者が迷うことなく、目的地に到達できるよう誘導する案内標識がある。



写真1 主要地点標識と併記された数字の表示①

この標識に関して、独自の取組みを行ったのが成田市である。成田市の観光名所である成田山新勝寺には、毎年正月三日に300万人近い参拝者が訪れている。これらの参拝者のうち、車を利用して人への案内の補助として設置されているのが、今紹介する数字で記号化された交差点である。また、正月にはほかの地域から多くの警察官が応援にかけつけるので、土地勘のない場所でも警備が容易にできるようにするというもう一つの大きな目的ももっている。具体的に成田市では、成田山新勝寺を取り囲むように、17の主要交差点に交差点名と数字の併用もしくは数字単独の標識が設置されている。

この標識を活用するために、観光マップや成田山のホームページには車での来山者に向けて、次のとおり案内されている。初めての人にもわかりやすくなっている。

成田インター→寺台インター→
(直進)→国道408号線→⑪信号(左折)→成田山新勝寺
(左折)→国道51号線→④信号(右折)→成田山交通安全祈禱殿→成田山新勝寺

案内標識の基本要素として、「指示(direction)」、「同定(identity)」が必要とされているが、この数字による表示は、同定の機能を發揮しているといえる。つまり、観光マップで交差点に数字が表記されているれば、運転者は容易に現在地を同定することができるといふことである。一方、このような標識があることを知らずに運転する場合、なんらの情報も提供してくれず、筆者も初めて車で走行した時には、不思議に思ったのも事実である。

成田市で設置されたのは1985年のことだが、近年では全国各地でもさまざまな取組みが行われている。高知では数字ではなくアルファベットで表示し、カーナビと



写真2 成田山の入口の交差点に設置された数字の表示④

ており、初めての人もわかりやすくなっている。

成田インター→寺台インター→
(直進)→国道408号線→⑪信号(左折)→成田山新勝寺
(左折)→国道51号線→④信号(右折)→成田山交通安全祈禱殿→成田山新勝寺

案内標識の基本要素として、「指示(direction)」、「同定(identity)」が必要とされているが、この数字による表示は、同定の機能を發揮しているといえる。つまり、観光マップで交差点に数字が表記されているれば、運転者は容易に現在地を同定することができるといふことである。一方、このような標識があることを知らずに運転する場合、なんらの情報も提供してくれず、筆者も初めて車で走行した時には、不思議に思ったのも事実である。

成田市で設置されたのは1985年のことだが、近年では全国各地でもさまざまな取組みが行われている。高知では数字ではなくアルファベットで表示し、カーナビと

国際空港をもつ国際観光都市である成田の事例をとおして、海外からの観光客を含めたすべての人にとって走りやすい道路および走りやすい指標・地図づくりに、このような標識を加えることも一考すべきであろう。

(一) 吉井稔雄、松平健…記号化標識—コゴ—
マーク高知—、交通工学、Vol.45、No.3、pp.30-33
2010年5月

石坂 哲宏 正会員

日本大学 助教

(取材協力：成田市交通防犯課)